

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2670500376
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
事業所名	洛和グループホーム久世
所在地	京都市南区久世上久世34-2 (電話) 075-925-0210

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年1月22日
評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(19年 12月 11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 31 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	19 人
利用定員数計	18 人
常勤 10 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 15.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,670 円	

(4) 利用者の概要(12月 11日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	69 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸太町病院、丸太町クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市南区の西部桂川に近い田園風景が残る静かな住宅地にあるグループホームです。法人は、介護、医療、健康・保育、教育・研究等幅広いネットワークをもつ洛和会ヘルスケアシステムで、グループホームの運営にも常に質の向上を目指し改善を図っています。入居者の声を聞くことを第一に考え、全ての職員が意見を出し合い、一人ひとりの思いの把握に努め、ケアに取り組まれています。また、ホーム内は季節感溢れる家庭的な雰囲気であり、入居者は料理や生け花など得意なことをしながら、生き活きと生活されています。今回の外部評価については、自己評価を重視し、より質の高いケアを目指して全員で取り組まれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	前回課題となっていたホーム独自の取り組み状況などを掲載したホームたより(久世だより)を作成されています。また、ボランティアの受け入れや小学校との交流など地域との交流を進めています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を理解し、サービス向上のための取り組みとして自己評価を職員全員で実施し、改善点についても、全員で検討しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームの活動内容や職員の異動などの報告や消防訓練の報告、中学生のチャレンジ体験の受け入れについてなど、情報交換が行われています。地域との交流や連携面が充実されました。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族がホームに来られた際や電話などで、意見や要望を表す機会を設けています。また、ご家族に対し年2回職員の対応や、ホームの環境等についてアンケート調査を実施し、集計して、ホームの運営に反映されています。外部に対しても、苦情対応窓口について、書類に記載し案内しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の小学校の発表会や保育園の行事、敬老会などに参加したり、中学校のチャレンジ体験を受け入れるなど地域との交流に積極的に取り組まれています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念はあるが、事業所としての理念は現在職員全員で検討中である。	○	地域生活での支援や地域での役割などもふまえて事業所全体としての基本的な考え方を理念とされることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は玄関の見やすい場所に掲げられており、毎月のカンファレンス時には理念に添った介護を個別のケアプランに反映されているかを振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域の夏祭りや小学校の発表会、保育園の運動会などに参加するなど、積極的に地域と交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を理解し、サービス向上のための取り組みとして、自己評価を職員全員で実施し、改善点についても全員で検討している。また、前回の評価を受け、地域との交流への取組みやホームたよりの作成などに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、入居者や家族以外に行政区の担当者や、民生委員、老人福祉委員、地域包括支援センター職員などが参加し、ホームの活動内容や職員の異動などの報告や、消防訓練の実施などについて話し合われている。		

洛和グループホーム久世

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南区介護保険サービス事業者会議に参加し、認知症に関する取り組みなどの情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度金銭管理の報告を行っている。個々の入居者の暮らしぶりや健康状態は、月に1度以上電話や面会時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対して、職員の対応や居室の環境、リビングの環境などについて年2回のアンケート調査を実施し、ホームの運営やケアサービスに反映している。また、外部も含め、苦情対応窓口について書類に記載し案内している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、入居者となじみの関係がながく継続できるよう、異動は最小限にとどめている。また、日ごろよりホームの管理者が職員の相談に乗ったり、法人でも面談を行ったり職員の離職も少なくなるように努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として職員の経験に応じた段階的な研修計画があり、実行されている。また、京都市主催のリーダー研修やグループホーム協議会の研修にも参加し、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会や法人内のグループホームとの交流会などを通じて常に質の向上に向け積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にできる限り家族や本人に来てもらい、入居者と過ごす時間を設け、ホームに馴染んでもらえるかを確認し、入居希望時には家族を交えてより具体的に相談し、本人が馴染んで生活できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に生活する中で、昔からの風習や料理の手順、生け花などを教わり、日々支えあい学びあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、日々の会話や生活の中から引き出した思いや、家族からの情報や希望などをシートに書き加えて更新するなど、常に希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式によるアセスメントを基に、希望シートやまとめシートを個々に記録し、記録をまとめて3ヶ月ごとにカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。シートには、職員だけではなく、家族や医師、看護師なども書き込めるようになっているため、他職種の意見が反映された介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の介護計画の期間終了時の見直しを行っている。また、体調に変化が生じた場合は、医師や看護師等必要な関係者と相談し、随時計画を見直し、家族同意の基、プランを変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院や外食、買い物、昔住んでおられた地域に行くなどの個別外出や通院介助など常にその時々要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や看護師とは24時間の連携体制がある。また、協力医以外に入居前のかかりつけ医に受診されている方もあるが、家族支援の基、24時間連絡がとれる体制をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針にそって、家族や医師と相談し、重度化に伴う状態に応じた支援ができる体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者に対する言葉掛けやプライバシーの保護について常に意識し、優しい言葉掛けをするように心がけている。個人情報事務所の鍵付きの棚で管理されており、出しっぱなしにしないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のスケジュールは、生活のリズムを作る範囲にとどめ、起床時間や入浴時間についてもその時の気持ちを大事にし、無理強いせず自然な流れの中で希望に添った支援に努めている。		

洛和グループホーム久世

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の希望を聞きながら栄養バランスを考えて職員が作成し、調理、盛り付け、配膳、後片付けなど入居者と共に協力して行っている。また、不定期ではあるが、近くのスーパーに買い物に出かけることもあり、日々楽しみのある食事の支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、特に時間を決めず、ご本人の希望に合わせて行っている。毎日入浴希望される場合や夕食後の入浴も対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや掃除、洗濯たたみなどの日常生活の役割だけではなく、生け花や金魚の世話、園芸、オルガンを弾いて皆で歌を歌うなど、個々の得意なこと、やりたいことを活かし、楽しく生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日希望に添って、散歩している。天気の良い日は買い物も兼ねて近くのコンビニやスーパーに出かけたり、喫茶店に気分転換に出かけたりしている。外出できない日はベンチで外気浴をしたり、庭の水まきなどして、外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、施錠することの弊害を理解し、日中は鍵をかけないケアを継続している。玄関にはセンサーが設置され、外に出られた場合は職員が必ず付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導による避難訓練を実施し、ホーム内では、2ヶ月に1回を目標に避難経路の確認や夜間想定訓練などを実施している。また、近くのコンビニに、緊急避難時の協力要請をしている。	○	運営推進会議を活用し、合同の避難訓練の実施など、地域への働きかけも積極的にされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、入居者の希望を聞きながら栄養バランスを考えて職員が作成し、定期的に法人の栄養士がアドバイスをしている。また、個人の摂取量や必要な方については水分量も毎日チェックし、体調等に応じて粥やムース食なども対応している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、ホームを感じさせない家庭的な造りになっており、リビングや台所は大きな窓から自然な光が入り、ほどよい明るさである。壁には季節の装飾が施され、民芸調の家具や生け花が落ち着いた空間を作っている。また、リビングにはゆったりとくつろげるソファが置かれ、快適に過ごせるよう湿度・温度が調整されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、個々持参の表札が掛けられている。居室内は、ご本人や家族と相談し、使い慣れた家具や好みの装飾品、仏壇などご本人と馴染み深いものを置き、過ごしやすいように工夫されている。		